

平成29年度 徳島県立池田高等学校（全日制） 学校評価 総括評価表

No. 3

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
3 自尊感情と規範意識の醸成に努め、基本的な生活習慣を確立するとともに、心身ともに健康でたくましい生徒を育成する。	① 人権意識の涵養と高揚	1 「池高人権の日」を設定し、日常生活の中で生徒の人権意識が涵養するように努める。	啓発プリントを用いた人権委員によるホームルーム啓発回数 年10回以上	人権委員によるホームルーム啓発回数は年10回(前年度10回)であった。本年度は、啓発プリント以外にもテレビ放送や校内放送も取り入れ、生徒が様々な人権問題を主体的に考えられる工夫をした。	A	B	(評定)	最近では、地元でも池田高校生の生徒の服装や髪型も以前よりも改善が見られ、さわやかで落ち着いた生徒が多く感じている。生徒指導の成果がでていないか。	様々な視点に立った人権啓発資料を作成し、啓発手法にも工夫をもたせることで、生徒が自然と人権感覚を身につけられる啓発になるよう努める。
		2 人権学習ホームルーム活動や人権講演会・人権意見発表会などを実施し、人権意識が高揚するよう内容の充実を図る。	生徒アンケート「人権学習ホームルーム活動などにより人権意識が高揚した」80%以上	生徒アンケートの肯定的評価は74%(前年度80%)であった。生徒の内面的変化が起こるよう、本年度も進路課とタイアップした講演会を実施した。	B				
	② 生徒の悩み・いじめ・問題行動の早期発見と適切な対応	1 特別支援教育の視点を大切に、相談室の設置や教育相談日の設定を行い、担任・各学年・各課が連携して組織的に対応する。	生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒84%(前年79%)、保護者87%(同85%)であった。本年度から配属されたスクールカウンセラーや担任、学年、人権・相談課が連携して組織的に対応した。	A	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	特別な支援が必要な生徒の実態把握に継続的に努め、相談室を生徒や保護者の相談の場として活用できるよう工夫する。
		2 生徒理解懇談会の開催や生徒生活実態調査の実施により、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見への取組、問題行動が発生した際の迅速かつ適切な対応に努める。	生徒生活実態調査の実施回数 年2回	生徒生活実態調査の実施回数は年2回(前年度年2回)であった。調査結果を教職員に周知し、適切な対応に努めた。	B				
	③ 基本的な生活習慣の確立と爽やかな校風の継承	1 毎日校門前で登校指導を実施し、挨拶の励行や遅刻の防止など、基本的な生活習慣の確立を図る。	1日当たりの遅刻者数 生徒数の0.2%以内	1日当たりの遅刻者数は0.63人(前年度1.03人)で生徒数の0.12%(同0.19%)であった。生徒指導課・副担任の教員を中心に、登校指導を毎日実施した。	A	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	毎日の登校指導を継続し、遅刻者数をさらに減少させるように努める。
		2 服装・髪型等の身なりや礼儀について常時指導を行い、爽やかな校風の継承・発展に努める。	教職員アンケート「服装・髪型の指導に効果が現われている」90%以上	教職員アンケートの肯定的評価は90%(前年度90%)であった。服装・髪型等の身なりについては、特に学年集会で時間をかけて指導した。	B				
	④ 交通ルール遵守と交通安全意識の向上	1 自転車・原付等の通学別生徒集会を開催するとともに、日ごろのホームルーム活動で交通安全マナーや安全運転の指導を行う。	通学別生徒集会の開催回数 年3回以上	通学別生徒集会の開催回数は年3回(前年度年3回)であった。各学期の中で全校集会を利用して開催した。	B	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	自転車の運転マナーについては、特に重点を置いて指導する必要がある。
		2 毎月20日を学校安全の日とし、交通安全意識を向上させるとともに、街頭交通指導を実施する。	街頭交通指導の実施回数 月1回	街頭交通指導の実施回数は月1回(前年度月1回)であった。学校安全の日には生徒登校時、最寄り駅から学校までの5か所で教員が指導にあたった。	B				
	⑤ 健康教育の推進と救急処置体制の確立	1 定期健康診断結果を担任・養護教諭が共有し、生徒の健康教育の推進や治療の促進を図る。	『保健だより』の発行回数 年10回以上	『保健だより』の発行回数は年11回(前年度年11回)であった。『保健だより』には疾病予防や治療の必要性、将来に向けての健康管理等の記事を掲載した。	A	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	さらなる健康教育の推進のため、保健委員が『保健だより』の周知を徹底できるよう工夫する。
		2 AEDを含む救急処置実技講習会を実施するとともに、事故発生時の対応マニュアルの周知徹底を行う。	教職員アンケート「AEDを使用した救急処置ができる」100%	アンケートの肯定的評価は生徒81%(前年度75%)、教職員92%(前年度100%)であった。教職員を対象にAEDを含む救急処置実技講習会を実施した。事故発生時の対応マニュアルの周知徹底は職員会議で行った。	B				
	⑥ 健全な心身を育成する部活動の推進	1 生徒が自主的・積極的に部活動に参加し、知・徳・体のバランスがとれた成長が促せるよう指導する。	部員アンケート「充実した部活動を送ることができた」80%以上	部員アンケートの肯定的評価は89%(前年度87%)であった。学業の両立、人間性の成長に十分に配慮し指導した。	B	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	部活動生徒集会も有効に活用して生徒の自主性・積極性を伸ばし、さらに充実した部活動を送れるように努める。
		2 部活動中における事故や怪我への対応方法・連絡体制について、全教職員が理解し、対応できるようにする。	教職員アンケート「事故への対応方法・連絡体制を理解している」100%	教職員アンケートの肯定的評価は97%(前年度95%)であった。研修会で事故や怪我への対応方法・連絡体制について確認した。	B				
	⑦ 校内美化の徹底とエコ活動の推進	1 全校生徒が清掃に取り組むよう、全教職員による清掃指導を行い、快適な学習環境の整備に努める。	生徒・教職員アンケート「生徒は真面目に清掃に取り組んでいる」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒95%(前年度91%)、教職員84%(同97%)であった。全生徒・全教職員でゴミの落ちていない学校をめざして清掃に取り組んだ。	A	A	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	清掃時には全教職員が速やかに清掃場所に行き、生徒の指導に努める。
		2 新学校版環境ISOの取組を通してゴミの分別を徹底するとともに、地域環境美化活動等を行い、エコ意識の高揚を図る。	生徒・教職員アンケート「ゴミの分別ができていく」80%以上	アンケートの肯定的評価は生徒95%(前年度94%)、教職員92%(同100%)であった。JRC部等、各部活動で校内外の清掃活動を定期的に行なった。	A				
	⑧ 安全・安心な学校環境の提供と防災意識の向上	1 校内巡視を日々行って危険箇所等を把握し、安全・安心な学校環境の提供に努める。	校内巡視の実施回数 1日3回以上	校内巡視の実施回数は1日3回(前年度1日3回)であった。朝のホームルーム前、昼食時、放課後の3回実施した。	B	B	(所見)	基本的な生活習慣の確立が図られ、爽やかな校風の継承に努めた。また、校内美化の徹底に努め、エコ活動の推進が図られた。しかし、救急処置体制の確立については改善が必要がある。	今後も校内巡視を日々行い、生徒の校内での生活を把握することに努める。
		2 防災に関する研修会や防災訓練を通して、生徒の防災意識を向上させるとともに、災害遭遇時の対応等を身につけさせる。	防災に関する研修会開催回数 年2回以上 防災訓練の実施回数 年2回以上	防災に関する研修会の開催回数は年2回(前年度年2回)であった。災害時の応急処置と炊き出し体験等を研修した。防災訓練の実施回数は年2回(前年度年2回)であった。火災想定と地震想定での防災訓練を各1回実施した。	B				

【備考】 「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった